

仕様書

次の条件を満たすものとする。

第 1 調達機器及び機器構成

- 1 散薬調剤ロボット
- 一式

第 2 機器に関する仕様

1	散薬調剤ロボット本体は以下の要件を満たすこと。
1-1	設置場所を考慮し本体寸法は W1300mm×D900mm×H2000mm 以内であること。
1-2	R 円盤を 2 枚搭載し、1 円盤で 93 包まで分割出来ること。
1-3	散薬薬品の選択・秤量・配分・分割・分包を自動化出来ること。
1-4	薬品は最大 30 カセット以上搭載可能なこと。
1-5	散薬カセットには RFID チップを搭載し、機械側で薬品を自動認識出来ること。
1-6	散薬カセットには 1 カセットあたり最大 500cc 充填出来ること。
1-7	散薬カセット設置部が天秤になっており、必要分量を払い出す機構を有していること。
1-8	計算可能なロードセル式天秤が 8 つ搭載されていること。
1-9	薬品総量が 0.5g より払出が可能し、わずかな量の散薬の場合、確実性を考慮してカセットからではなく、手差しフィーダーにて分包が可能なこと。
1-10	分包時の秤量結果のエビデンスを、分包紙及び調剤記録紙で出力できること。
1-11	内部にカメラを搭載し、秤量・配分時の様子を動画撮影が可能で、分包が正常にできているかチェック出来ること。
1-12	カセット内から散薬の固まりが落下していないか推論できるよう、流速グラフを表示出来ること。
1-13	配分完了後、散薬カセットを保管棚へ戻す前に、充填部の天秤でカセットを含めた総量を量り、配分前重量との差分をチェックし、秤量誤差がないかダブルチェックする機構を有していること。
1-14	機械内部の散薬が通過する経路をくまなく除電し、静電気の発生を抑える機能を有すること。（イオナイザー）
1-15	R 円盤上に残薬や汚れがないか、R 円盤の清掃後にセンサー検知し、万一、残薬があれば再度 R 円盤の清掃が出来ること。
1-16	天秤フィーダーには LED が点灯し、3 色の色を用いて動作状況を視覚的に確認出来ること。
1-17	処方量の多い薬品については、同一薬品を複数のカセットに搭載し、グループとして紐付けし、払い出しが出来ること。
1-18	搭載外薬品や、粉碎薬品、少量薬品には手差しフィーダーが使用出来ること
1-19	カセットにて自動秤量された薬品においては、調剤記録を分包紙及びジャーナル用紙に出力が出来、最終重量鑑査時に分包紙を含めた総重量を印字できるような機能を有すること。
1-20	手差しフィーダーは手差し窓を取り付けることで、前面扉を開かなくても手軽にセットでき、セット位置は、LED ライトで表示出来ること。
1-21	搭載されていない薬品があった場合、画面と音とパトライトで知らせる機能を有すること。
1-22	充填の際の薬品照合は、バーコードリーダーへ薬品バーコードと RFID チップで突合が出来、充填チェックを行う機能を有していること。

1-23	搭載薬品の有効期限を登録することで、有効期限切れの薬品に対してアラート表示する機能を有すること。
1-24	1 枚の R 円盤に一度に 3 薬品同時撒きが可能で、1 処方で最大 12 種の薬品を混合分包可能であること。
1-25	消耗品残量が一目で分かるように残量が 5 段階表示され、交換時期を一目で確認できること。
1-26	分包紙の交換が容易に行えるように広角ローラーオープナー機能を搭載していること。
1-27	包装部は楽な姿勢で分包紙の交換が行えるようにプルラウンド方式を採用していること。
1-28	強力なシール精度を誇るヒーターローラー方式を採用していること。
1-29	分包紙は上部の圧着面のどこからでもカット可能な商品を使用可能なこと。
1-30	二つ折の分包紙を採用していること。また、すでに導入済みの機器と共通で使用できる規格であること。
1-31	薬包印字リボンの交換はカセット式で容易に交換可能であること。また、インクリボンは環境に考慮した詰替式のリボンを採用しており、すでに導入済みの機器と共通で使用できる規格であること。
1-32	印字レイアウトはフリーフォーマット形式で、印字項目を自由に選択出来ること。検薬印字は通常の薬包と異なった形式で印字可能なこと。
1-33	分包された薬包紙 1 包毎に患者 I D、患者氏名、処方箋番号、用法名、病棟名、診療科名、コメント、日付（西和暦）、引換券番号、薬品名をひらがな、カタカナ、漢字、数字、で印字する機能を有し、検薬印字は、最初のロス袋に処方日・患者 ID・患者名・薬品名・用法パターン・日数などを印字する機能を有すること。また、ピクトグラム印字やバーコード・Q R コードも印字可能であること。
1-34	分包速度は、50・45・40・35・23 包／分の 5 段階から薬品毎に設定が可能なこと。
1-35	分包紙 1 包の幅サイズは、60mm、70mm、76mm、80mm、90mm、100mm の 6 種類を選択できること。
1-36	散薬ホッパー部分にはより集塵効果を発揮するシャッター機構を備えており、更には、トルネード清掃が可能であること。
1-37	印字あり自動カットでの使用時にはロス袋は 5 包以内に抑えられること。
1-38	消耗品の交換やメンテナンス等についての操作マニュアルが操作卓上で、音声と動画による A V マニュアルとして参照できること。
1-39	薬品マスターに登録しておく、薬剤毎のフィーダー速度の自動調整が可能であること。
1-40	電源は A C 100 V を使用し特別な設備を必要としないこと。
1-41	待機電力を抑える省エネモード機能を搭載していること。
1-42	薬剤部門システムと接続し、オーダーリングシステム情報を取得するために機械本体に搭載されているパソコン以外に特別な装置、端末を必要としないこと。

第3 その他

1	調達機器のうち薬機法に基づく製造承認が必要な医療機器に関しては、入札時点でその承認を受けている物品であること。
2	薬機法対象外の調達機器は、原則として入札時点で製品化されていること。ただし、入札時点で製品化されていない機器によって応札する場合は、本仕様書に示す技術的要件を全て満たすことが可能であることを証明する技術的要件、納入期限までに製品化され納品できることを保証する開発計画書及び確約書等を提出すること。

3	機器本体、付属品及び付帯設備は、すべて未使用品であること。
4	納品後 1 年間は、通常の使用により故障した場合の無償修理に応じること。
5	搬入、据付、配線、設備、設置場所の工事・調整に係る費用は全て、本調達に含まれること。
6	機器の搬入、据付及び調整については、センターの診療業務に支障きたさないよう、センター担当者と協議の上、その指示によること。
7	機器の設置作業スケジュールについては、センター担当者と事前に打ち合わせ、作業日程と体制を提示し、センターの承認を得ること。
8	機器の据付、正常動作のための調整確認後、センター職員に対して機器の操作及び保守管理に必要な技術指導を行った上で、機器を引き渡すこと。
9	機器の搬入、据付及び調整に伴い障害（建物等の破壊、機器の破損等）が発生した場合は、センターに協議の上、速やかに復旧すること。
10	機器の搬入、据付及び調整に当たっては、安全管理に万全を期することとし、センターは発生した事故等の責任を負わないこと。